

27年12月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成27年12月1日～ 27年12月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
12月分の回答企業数は8社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		27/12月	28/1月	28/2月
伐採動向	スギ	20.0	20.0	△ 10.0
	ヒノキ	△ 20.0	△ 20.0	△ 30.0
	カラマツ	△ 75.0	△ 100.0	△ 100.0
	エゾ・トド	△ 50.0	25.0	25.0
出荷・販売動向	スギ	10.0	30.0	△ 10.0
	ヒノキ	12.5	0.0	△ 12.5
	カラマツ	△ 75.0	△ 75.0	△ 75.0
	エゾ・トド	△ 25.0	25.0	25.0
手持立木在庫動向	スギ	0.0	10.0	△ 20.0
	ヒノキ	12.5	0.0	△ 25.0
	カラマツ	△ 50.0	△ 50.0	△ 25.0
	エゾ・トド	△ 75.0	△ 75.0	△ 75.0

・スギの伐採は12月、28年1月の増加が2月は減少。ヒノキ及びカラマツは3ヵ月連続して減少。エゾ・トドは12月の減少が、28年1月、2月は増加。

・スギ及びヒノキの出荷は12月、28年1月の増加ないし横ばいが2月は減少。カラマツは3ヵ月連続して減少。エゾ・トドは12月の減少が、28年1月、2月は増加。

・スギ及びヒノキの在庫は12月、28年1月の横ばいないし増加が、2月は減少。カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・当月は造材班が他作業に応援のため、伐採は減少、翌月から通常伐採に戻る（北海道）。
- ・伐採終了、新年度までゼロ（中部）。

(出材・販売動向)

- ・トドマツ間伐は、出材調整・納入制限もなく順調に動いている（北海道）。
- ・出材調整はしないが、運材トラックが当地では不足しているので、思った時期に販売できないことがある（北海道）。
- ・冬季を迎えたが、雪が降らないので順調な出材（中国）。

(手持ち立木在庫)

- ・立木在庫は伐採した分減少、まだ在庫があるので適宜購入予定（北海道）。
- ・当月中旬以降の立木販売で落札した場合は、在庫は変動する（北海道）。